

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
<p>新都心軸の形成に係る今後の取組方向について</p>	<p>津市の将来の発展を考えた場合に、津のインターチェンジからなぎさまちに至る縦の軸を、将来の軸というような意識で構想も策定されております。既に御説明いただいたとおり、いくつかの調査研究あるいはセミナーなどを開かれまして、各種の検討が進められておると理解しておりますが、どういうふうに進めているという説明はありませんが、その内容について、まだ、明確な御説明がないように感じております。私は、やはりこの軸は、先程来おっしゃったように、スポーツの中心地的な、大規模スポーツ施設、あるいは、田園都市にふさわしい住宅の建設、あるいは、人の交流を活発にするようないろんな施設、そういったものが考えられると思います。土地利用計画とか、いろんな権利の調整等がございますので、今の時点では、なかなか具体的にお示ししにくいという考えも理解できるんですが、どういう課題を、どういう方向で検討しているのか、また、それにはどういう問題点があるのかといったところを、もう少し具体的に出していただいて、委員の皆さんの中で意見交換を活発にさせていただけたらありがたいと考えます。</p>	<p>新都心軸の形成について、調査研究やセミナー開催等を通じ、各種検討が進められていると理解している。様々な権利関係の調整が必要なものであることから、課題や検討の方向性等を具体的に公開してはどうか。</p>	<p>津市の魅力は、産業や豊かな自然など、様々な恵みが一体となった「住みやすさ」にあると思われる。 文化及びスポーツ施策について重点的に取り組むことで、住みやすさの一層の充実を図りたい。</p>
	<p>先ほど内山さんが言われましたとおり、私は、津市の位置づけとしては、工業のまちとも違いますが、昔は商業だったかも分かりませんが、商業とも違うと思います。津市が打ち出すのは、文化も含めた住みやすさだと思います。市内に大学も、4つございます。こんなまちはないと思いますので。やっぱり、住みやすさを謳っていくには、文化とスポーツが重要であり、そこを重点的にするべきだと思います。先ほど、進捗がどうか分からないと御意見でしたが、私も二つ述べさせていただきます。津インター周辺の圃場整備のところですが、中勢用水を、思い切って、外していかないといけないと思います。どこかで合意をいただかないと、進めていけないと思います。先日、新聞に出ていましたけど、メッセの位置づけというのはどうなんでしょうか。メッセというのは、昔の通産省に補助金をいただいていたと思います。記事によると、あの施設を少し改築したいということですけど、私は、大きく改築してもよいと思います。その辺を含めて、どこまで構想ないし計画が進んでいるのか、あるいは、まだ市民の意見を聞いているだけなのか、現状が分かりませんので、御説明をお願いします。</p>	<p>津市の魅力は、工業や商業ではなく、「文化も含めた住みやすさ」だと思う。文化とスポーツを、重要施策として重点的に取り組むべき。スポーツ施設の建設に当たり、メッセウイングを積極的に活用してはどうか。</p>	
	<p>部長の説明は分かるんですが、せっかくこういう審議会という場があるわけです。思い切った判断、例えば、農振の用地を都市的な土地利用に切り替えるということになりますと、今おっしゃったように、中勢用水の受益負担金の問題や農地の転用問題等、いろいろと課題もあろうかと思えます。また、津市の将来像を考えますと、農業政策もどんどん進められて、減反政策も現在4割にまで達しておりますし、超高齢化が進んで農業の担い手がいないという実態も明確になっています。将来日本の人口が減る中で、食糧はどうするかといった大きなテーマもあります。それらも踏まえて、議論するのは容易ではないですが、せっかくのこういう場ですから、将来、こういった地域の土地利用をどう考え、若い人たちに夢と希望を与えるようなまちづくりをどのように進めていくかということに関する津市の考えというのを、思い切って出していただいて、そしてそのために解決しなければいけない課題についても鮮明にして市民に問いかけていくという姿勢が出てくれば、一歩ずつでも二歩ずつでも進められるのではなからうかと、このように思います。今の段階ですぐ地区計画云々ということは、私も考えておりませんが、夢を踏まえた姿を明らかにしていくというのは、こういった場で必要ではないかと、このように考えたものです。</p>	<p>新都心軸の形成に当たり、特に農業関連施策の關係に課題があると考えている。容易な問題ではないからこそ、早急に、津市の将来に係る夢を明らかにするとともに市民に問いかけるなどの取組みを進めるべきではないか。</p>	
	<p>大変貴重な意見で、これは提案書の中に、意見の中に盛り込ませていただくという扱いにさせていただくことでよろしいでしょうか。それから、先ほど濱野委員が言った住みやすさというのは、例えば、実需産業と豊かな自然とか、そういった恵み等が一体となったというようなことでよろしいわけですね。スポーツについても、ウォーキングという取組みもありますし、文化施策としては、いろいろな施設がありますね。そういったものを掘り起こして、皆さんに分かりやすくしていく。それが、津市の売りじゃないかというような御提案でございました。</p>		
	<p>先日、都市の住みやすさを見ていたら、今回のランキングで、横浜が上がってきたんですね。鎌倉が上がってきましたし、札幌はもちろんです。津市の良さというのは、今更商業都市になるわけでもないですし、住みやすさのような良さのような気がします。全国の住みやすさの調査結果を見ますと、津市は意外にいい位置にあるように思います。工業は、サイエンスとファクトリーがあったら十分ですし、商業も、この社会状況ですし、インターの辺りの規制などを無理に外しても、商業施設が来て活性化することもないような気がします。文化やスポーツで、なんとかいい形にさせていただきたいなと思います。</p>	<p>津市の良さというのは住みやすさにあるのではないかと。</p>	
	<p>そういうものでアピールしていったら、人が来てくれる、地域が活性化されていくという循環を作り上げていくという考え方でいい。</p>		
	<p>新都心軸について、中勢用水の受益地に関する課題があるとのことですか、これは、住宅地が出来たらだめなんですかね。私は、エコシティというか、電力、太陽熱というようなもので生活できるような住宅地にすれば、これはまた人が見に来るといっていいかと、活性化すると思うんですけどね。だから、何か持ってくるという必要もなく、そういうものだったら、中部電力や、団地開発業者等と一緒に事業をする必要があるとは思いますが、まだまだ全国でもそういう街をつくってはいないと思うので、観光の資源にもなり得ると思うんです。そんなにも経費もかからないのではないかと、個人負担でやってもらうこともできますし、その個人負担に対しては、政府からの補助金もあるわけでしょうし。</p>	<p>津インター付近について、新エネルギーを活用する住宅地とし、活性化に繋げてはどうか。</p>	<p>新都心軸の形成の検討に当たっては、農業施策や土地利用のあり方、次世代に夢と希望を与えるようなまちづくりについて、課題を鮮明にして市民に問いかけ、方向性について広く議論しながら具体化に向け取り組まれない。</p>
	<p>いろいろ難しい、一番根本要のところになかなか進みにくいところがあって、法的な問題とか財政的な問題とか、いろんなものが絡んでいるものですから、なかなか資料としても出にくいところがあったのかと思いますが、課題としては、整理させていただいたように思うんですが、いかがでしょうか。</p>		
	<p>都市計画関係の法律とか、農振の関係の法律とか、そういった法律もあるわけですが、その運用は、あくまでも行政当局の裁量で動かせる部分が相当あるわけです。従って、何も法律を無視してということをおっしゃるわけではなくて、そういう法律を前提にして、市長の権限、地域の分権と言うことが今言われていますから、地域の、主体性を持った判断として、調整をしていくということは可能ではないかと、と、こういうふうにご検討いただいております。従って、例えば中勢用水の受益地を振り替えるということも考えられるわけです。また、あの辺の地域を農振の用地から外すと。一方で、市街化区域に指定された農地もたくさんあるにも関わらず、高齢化が進んで耕作放棄地もどんどん出ていることや、跡継ぎがいないといった将来の課題を考えると、振り替えるということも十分考えられます。それから、先ほど吉田委員からおっしゃられました、エコシティという考え方ですが、エコという考え方は、今、世界的な大きな課題となっておりますから、どういう言葉がいいのかどうかは、私もよく分かりませんが、自然の力をフル活用した、若者や年寄りが住みやすい街をモデル的につくっていくということも、津市が発信していくということだって、考えられないことはない。幸い、津は広い空間があるわけですから、広い農地も林地もあるわけですから、その辺をどういうふうに活かしていくかというのはですね、やはりまだ議論していく値打ちがある大きなテ</p>	<p>当面の法律や仕組みにとらわれて議論が進められていないのではないかと。</p>	

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>一マだと考えるんですね。従って、あまりに当面の法律とか制度・仕組みにとらわれて議論が進められないというのはいかがなものかというふうに考えます。</p> <p>現在のくにつくり、地域づくりの法律があるわけですけれども、今の地方の動きや各県の知事さんの発言などを聞いておきますと、これはまあ、マスコミからの情報ですから正確なところを私自身は知りませんが、地域の発想を大事にしていくという考え方が、相当中央政府にも伝わっていったおんじやないかと、こういうふうに思っておるわけです。しかも最近、総務大臣が、国会議員ではない、知事経験者の方がなっておられるということから、地域分権と言いますか、地域を主体とした補助金の在り方といったような構想まで、既にいろんな発言がなされてきていると受け止めております。従って、その辺のところは、もう少し柔軟に考えていったらいいんじゃないかと思うんですが。</p> <p>三重交通やいろんな会社で、バスのツアーを行っています。津の参加者の方が、たくさん関まで来ています。知人に、どうして関で乗るのか、どうして津駅や三重会館や御センターで乗らないのか聞いてみました。駐車場がないというのが答えです。メッセは駐車場もあって、車が駐車できますから、うまく三重交通などと連携したら、旅行の拠点として有望なのではないでしょうか。また、今年名古屋の港の花火を見に行きました。ちょうど、津の港みたいなどころですけれども、津の大門みたいなどころからずっと、テキ屋さんや若者もいっぱいでした。住宅地では花火は迷惑だということなら、せつかく港があるので、会場をこちらに変えとか、そういったアイデアで埋めていったら、この都心軸というのが生きてくるような気がします。</p>	<p>今の地方の動きなどを見ていると、地域の発想を大事にしていくということが重視されており、今後、国の動向に変化があることが想定されることから、柔軟な対応をすべき。</p> <p>バスツアーの拠点等、メッセウイングの駐車場の活用について検討すべき。 また、花火等のイベントについても、新都心軸との連携を検討してはどうか。</p>	
<p>交流に関する施策の多面的な取組みについて</p>	<p>この自然の恵みでございますけれど、津市は非常に大きい市になって、農村とか森林地帯も入ってきました。取組みを見ていますと、大人の話が多いんですけども、子どもたちの交流をまずやっていったらどうかと思うんです。昔は、学校の遠足という、近くの山とかさういったところに行ったわけなんですけれども、美杉の川上神社の辺りに、今、小さいのはあるみたいですけども、大きいキャンプ場をつくって、都市部の、特に小中学生がそこへ行く、それから美杉の人たちは御殿場とか、海岸に来るとかですね。そういったところから始めれば、津市の一体感が、将来出てくると思うんです。まず、小中学生から、都市部の子どもたちを美杉へ連れて行く、美杉の子どもたちを御殿場へ、海へ連れてくるというかね。そういうことをやれば、将来、津が一体化するし、大人たちもいい場所だと思ってもらえるので、そういうことをちょっと考えたんですけど。</p> <p>既に森林セラピーということで、コースが出来てるんですね。それが多分ウォーキングコースになっていると思うんですけども、もし、そこにそういうのが組み込まれていなければ、そういったものを少し加えるということ、さらに、今、吉田委員からはもう少し、若い若年層と言いますか、そういう人たちにも広がりを持たせてはどうかという御提案だったというふうに解釈いたしました。</p> <p>雲出川流域だけではなくて、安濃川や岩田川もいっぱいあるわけだから、もうちょっと運動を広げていただきたいと思います。それから、遠足のバス代を予算に組み込めば、もっと活発に交流できると思います。バス代って大してお金がかからないので、やったらどうかと思いますけどね。</p>		<p>森林セラピーコース等の整備が進められているが、それを利用した取組みを子どもや若年層にも広げていくべき。</p>
<p>森林資源の多面的な活用を</p>	<p>美杉町で、この9月に、森林セラピー運営協議会というのが出来まして、これから、その協議会が森林セラピー基地を運営していくということで、始めたところです。今、美杉町では小学校が1校になりまして、空いている学校もあるんです。そういうのも活用していただいて、津や久居の、街の子が美杉に来ていただいて、キャンプしていただいたり、勉強していただいたりというのもよいと思います。太郎生の小学校も空いていますし、そういうのも、うまく利用していただいて、都市の方と山村の方と交流の場を作っていただいたら、私たち美杉の者としまして、活性化するのではないかと思います。それから、今、山歩きというのがすごく流行っているんです。美杉に伊勢本街道がございますが、そこへ、バスがたくさん来てもらっています。先日も、1日に10台くらい来ていただいたんですが、1台のバスに40人くらい乗ってきますんで、10台で400人が来ていただいたことになります。道の駅もしっかり流行っておるらしいんですが、大和の方から来てみえて、こちらの方まではあんまり通りませんので、こちらの方はあまりご存じないかもしれませんが。上多気の本島神社辺りが、大阪方面からの入込み客が多いので、その辺も、市の方も、もっと力を入れて宣伝していただいて、活性化に繋げていただいたらという感じもしております。たくさん来ていただいておりますので、皆さんも是非一度美杉に来ていただいて、その実態を見ていただいたらありがたいと思います。</p> <p>私、大学にいたら、森林関係の先生が言っておりましたけれども、大阪方面から来る人たちは、美杉の林を見ると、まさに森林を見に来たって感激して帰るらしいですね。北島を含めて、いろんな史跡もあります。そういう意味では、いろんな、いわゆる歴史のルートとかさういったものは、随時整備を進められているというふうに思いますし、それを一層、しっかりと進めていただくということ、あるいは、出来ていても、それが案内される場所が限られているとか、宣伝が少ないということだと困りますので、やはり、市としても、積極的にいろんな機会、場所をとらえて、案内してもらって、来ていただけるようにということが重要ではないかというふうに思いました。それから、新雲出川物語推進委員会の皆さんは、ボランティアで、いろんな、地域の良さとか誇りとか、自然を守ったり、恵みをさらに大きくしたりとか、いろんなことで活動していただいているんだろうと思うんですが、そういうボランティア、ふるさとのことをよく教えていただけるような方の育成、養成というのは、なさっておられるわけですか。</p> <p>整備だけではなくて、そういう地元の人にも関わっていただくことが大事ですね。もてなしという、すばらしい言葉で表現されましたけど。</p>	<p>統合により、空いている小学校もあるので、そういった施設を活用して、交流事業を実施してはどうか。 また、市外との交流について、山歩きが流行っており、大阪方面からの入込み客が多いので、市においても広報活動を充実すべき。</p>	<p>森林セラピーロードの一層の整備を進めるとともに、その活用にあたっては、地域の方々と協働や人材育成にも配慮した取組を進められたい。</p>
<p>交流に関する施策の多面的な取組みについて</p>	<p>先程来、お話しに出ております新雲出川物語推進委員会ですが、実は私、副委員長を務めさせていただいております。これは元々、津市が合併したときに、なんとか地域を一体化するようなことをやりたいということで、何が出来るかなということを考えました。そして、雲出川は源流から河口まで一つの線でつながるじゃないかということで、雲出川を中心として、何か一体化出来るようなことをやりたいということが、そもそもの始まりなんです。それで、山・川・海、それぞれの子どもたちを含めた交流を、先ほど御紹介がありましたように、植樹から潮干狩りまで含めまして、いろいろやっております。前回、小泉委員さんの方から、文化協会も是非、ということでお話をいただきましたので、早速、委員長の方から小泉さんの方へ連絡が行っていると思いますけれども、そういった文化的な、歴史的なものもたくさんございますので、そういうものも含めて、是非、事業に取り組んでいきたいというふうに考えております。</p>	<p>(新雲出川物語推進委員会の活動について説明)</p>	<p>交流に関する施策の実施にあたっては、様々な市民の参加が不可欠であり、特に、若年層やいわゆる団塊世代の参加を促進するため、伊勢神宮の式年遷宮や、近年のウォーキングブームを積極的に活用するなど、市内外の観光資源等を活用した取組を推進されたい。</p>

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>最近、日本全国で、そういった集落が崩壊していくと聞いております。年寄りの方が、一人で生活していると。若者が戻ってこない、集落がつぶれるといった情報が流れておるわけですが、美しい日本の国土を守っていくためには、年をとっても暮らしていきたいという都会の方が出てくれば、その受け皿として行政の方も若干なりの助成をして、積極的な取組みをしていったらいいんじゃないかと、こういうふうにも思ったものですから、発言させていただきました。</p>	<p>限界集落等高齢化が進む中山間地域においては、定年後に田舎暮らしを希望している都会の人の受け皿となるような移住交流の取組をさらに進め、地域の活性化を図るべき。</p>	<p>中山間地域においては、定年後に田舎暮らしを希望している都会の人の受け皿となるような移住交流の取組をさらに進め、地域の活性化を図られたい。</p>
	<p>先ほど、部長がおっしゃったように、市民参加型ということになると、私もまだ現役に勤めてますと、なかなか地域のために働けないわけですし、職から放たれれば、地元の方と一緒にいろんな取組みができるだろうと思っておりますし、しなくてはならないだろうと思っております。また、60歳とか65歳とかの方々は、まだそれから20年や25年は悠に元気でがんばられるわけですから、そういう方々に、どう事業の中に入れていただくのか、その辺のポイントがあれば、大変効果的になるのかなと、今、お話を聞いていて思いました。その辺り、定年なされた直後位の方々に向けての取組みは、何かなされているんでしょうか。</p>		
	<p>そういう取組みを進めている一方で、課題もあるということですので、そういった点をしっかりと取り組んでいただくというような提案という形はとらせていただけるかなと思います。</p>		
	<p>先ほどお話がございましたように、自然のいいところがございますけれども、そういうところは、今、過疎が進んでおまして、美杉、美里、芸濃と、小学校が廃校になっていっています。津市のスポーツ少年団の人たちと話していると、合宿する場所がないと言っています。野球の練習場や、合宿所や、サッカーの練習場、特にサッカーを練習する場所が津にはないそうなんです。何か規制があるのかもしれませんが、これから空いてくる学校もあるわけですし、そういったグラウンドをできるだけ使わせてあげるようにできないでしょうか。例えば野球の練習場所として、津球場とかを借りたらいいんですけど、そんな高いところは借りられませんので、自分たちの学校でやっているんです。学校では他の子どもたちもいて危ないし、思いっきり練習もできません。ああいう、空いた学校のグラウンドを使わせてもらえるといいなあという声があるものですから、そこは、これからの課題として検討してください。</p>	<p>廃校となった小学校の施設を、スポーツ少年団等に開放してはどうか。</p>	<p>子どもたちの生活様式の変化に関わって、交流に関する施策の実施に当たっては、子どもたちが自然を通じた交流が図れるよう、廃校舎を利用した生活体験等、様々な取組を検討されたい。</p>
	<p>市内で、体育館の開放をしていますよね。</p>		
	<p>合併で、いっぱい小学校も空いてきますよね。芸濃は2つ空いてきますし。</p>		
	<p>美杉は夏も涼しいということで、今年の夏も結構よそからも来ていただいて使ってもらってますので、使っていただいたらいいと思います。もちろん、日程的に空いていよいよとなりますが。</p>		
	<p>ボランティアガイドについてでございます。平成25年に、伊勢神宮の式年遷宮がございましたね。翌年の平成26年がおかげ年ですね。その影響もあって、街道ウォークというのが、今、ものすごく盛んなんです。先ほど、岡田委員さんが、伊勢本街道にバスが10台来ていると言われましたけど、15台が一週間に2回あったときがあるんですよ、白山町にも初瀬街道が通っておりまして、私も白山道するべの会の一員でございますから、日頃法被を着て、道のご案内なんか立らせていただいております。津市全体を見渡しますと、一身田寺内町のところをトップにですね、各地区で大変な活動をされておりまして、ガイドやってる者も大変ですけど、お越しいただくのも関西からあるいは名古屋方面から、たくさんいらっしゃいます。また、1団体500人くらいの団体さんが多いんです。この前白山に500人の団体がおみえになりましたが、ガイドをしている私たちは15人くらいしかいませんから、お昼も食べられないくらい忙しかったです。それくらい、大変なブームになっておりますから、そのブームに乗れない手はないと思います。中高年の方が多くて、若者というところまではちょっとまだ届いていないと思いますけれども、やっぱり、今の2、3年の間は大いに活かしていくべきではないかなと思います。</p>		
	<p>来た人たちがまちに寄ってくれるように工夫して、買い物でもしていただくとか。そのまま帰るのでは、メリットが半減してしまいますから。</p>		
	<p>私、この4月まで、津市のスポーツ少年団の本部長をやっておりました。たまたま私も、美杉の親父が出身でして、小学校、中学校の間は、美杉におりました。やはり美杉は素晴らしいところです。今は、猿が出てくるようになってきて、私の親戚も猿退治で困っております。合併後、私どもは、津市内の各施設を見て回ったんですが、市内にはたくさんの施設があるんです。規模的には中途半端なものが多いですけど、たくさんの施設があるんです。竹原にも、素晴らしい施設があります。また、美杉の山の上のところにも、素晴らしいグラウンドがある。その横には、キャンプファイアーができる施設がある。ああいうのを、もっともって利用できないかなと思いつながら、スポーツ少年団の方に言うわけです。あの山の上のグラウンドは、はっきり言って、他にはないような素晴らしいグラウンドですが、その活用量は非常によくない状況です。美杉のソフトボールのスポーツ少年団はあそこを使っているんで、一度見に行ったことがあるんですけど、競技をのびのびとできます。そういう施設を、もう少し活用できないかなと思います。旧津市内からそこまで行っているいろいろやるには、何かがないとなかなか行けないというのが現状だと思うんです。だから、そういう素晴らしい土地を、何とかみんなで盛り立てていければと思います。</p>		
	<p>子どもたちの生活が、いいか悪いかは別にしまして、普段の生活様式が、かつての我々の子ども時代と比べて、非常に変わってきております。私がある学校に勤めていたときに、正月の休み、お正月以降7日まで休みがあるわけなんですけれども、その休み中に、3日ほど地域を歩いたことがありました。しかし、一度も子どもの姿を見ずに、年配の方が、ゲートボールだとか、ウォーキングだとかで、元気に動いてみえる方の姿を見ました。子どもたちの生活が、かつての、今ここににおみえになれる方の子どもの時代とは、非常に変わってきていることは事実だと思います。大きく変わってきておりますが、子どもたちが家の中に入って、機械相手に遊んでいることが、子どもの成長に果たしているのかということは、私自身は非常に疑問に思います。ただ、子どもたちが外で遊ぶのに必要な、かつて我々が遊んだ里山が、今、市内にあるだろうか。</p>	<p>子どもたちの普段の生活様式が、昔と比べて非常に変わってきている。自然と共生するような生活とするような取組みを進めるべきでないか。</p>	<p>子どもたちの生活様式の変化に関わって、交流に関する施策の実施に当たっては、子どもたちが自然を通じた交流が図れるよう、廃校舎を利用した生活体験等、様々な取組を検討されたい。</p>

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>今、美杉の方の森林のすばらしさ、芸濃町の方の森林のすばらしさをお聞きしました。これは、非常にすてきなものですけれども、メジロを捕ったり、ホオジロを捕ったりするような里山が、自分たちの身近にあるだろうか。また、川へ行っても、子どもたちが川へ入って遊べるようなところがあるだろうか。実は安濃でもその話が出たんで。かつてのことを思うと、安濃川が、葦の原になって、子どもたちが入る幅がないという状況になっています。そういう状況の中で、我々が子どもたちを育てていく上で、また、生活をしていく上で、自分たちが今置かれている生活と同時に、そういう、人の生活に関われるような環境作りを、是非、今後、進めていかなければならないのではないかと考えております。</p> <p>昔に戻るというわけではありません。今もいろんな取組みを実施して、前へ前へ進んでもらっているわけですが、我々の生活、それから子どもたちの生活が、自然の中に、子どもありき、人ありきとなった環境作りを、今後、我々は考えていかなければならないのではないかと思いますので、是非、そういう方向で、まちづくりを検討していただければと思います。</p> <p>非常に難しいことではありますけれども、基本的なところだと思いますので、きちっと提言書の中にまとめていかせていただきたいと思います。</p> <p>いずれにしても、子どもたちが自分たちのふるさとを、自然の中で楽しむということをございます。</p> <p>そのことは、将来自分たちの街を大切にするという気持ちに繋がる大きな要素ですので、そういった廃校等も含めて、活用するというのも、提案の中に入れてさせていただくというふうにさせていただきますと思います。</p>		
有害鳥獣対策の強化を	<p>前回からの提言・意見のまとめを見ていただくと、このプログラムの中に、有害鳥獣対策というのが論点となっております。</p> <p>しかし、先ほどお話も出しましたけれども、動物たちも生きていくのに必死なんです。今、COP10が名古屋で開催されておりますけれども、やはり生き物たちと共生できるまちづくりというのは、非常に大切なことで、近年、動物たちが里の方に下りてきて人を脅かすようになってきたのは、人と動物の生活する領域の境界線があやふやになってきている、すなわち、緩衝地帯である里山が整備されていないということが非常に大きな問題かなと思っております。</p> <p>動物たちを退治すること、やっつけることばかりを考えるのではなくて、そういった目でもって、何か対策を立てて行かなくてはいけないのかなということも思いました。</p> <p>治水治山という問題もありますけれども、やはり、遊び場の問題も含めまして、里山整備が重要であり、そういうことも含めた上で、考えていただきたい。</p> <p>川の改修工事も、もちろん大切ではございますけれども、親水公園なり、そういったいわゆる自然工房といえますか、そういった形の取組みも是非考えていただきたいなということで、一言、付け加えさせていただきますと思います。</p>	<p>人と動物の生活する領域の境界線となる里山が整備されていないことが獣害の大きな原因。頭数調整だけでなく、里山整備の観点からも取り組むべき。</p> <p>治水治山という観点からも里山整備は重要。</p>	<p>有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。</p>
	<p>それから、このプログラムの中で、バイオマス等の活用ということが、まったく話題に上っておりませんが、その辺り、記述の方も非常に下の方が空白になっておりまして、ほとんど何も書かれていない状況なのですが、それほどのようなことなのかということ、少し、御説明いただければと思います。</p>	<p>バイオマスの活用についても検討を進めるべき。</p>	<p>バイオマス等の活用について、今後も調査研究を進め、本市の状況に見合った方向性を示されたい。</p>
	<p>そういった調査研究というのでしょうか。そういうものを進めているという中で、一つの方向を見つけてもらうということ、提案するという形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>何もやっていないというわけではないということで、御意見をいただきたいと思います。</p>		
	<p>有害鳥獣対策の件ですが、これは、前回前田委員からも出ておりました、子どもの登下校の時の安全確保の問題ということも含めて、現在は間引きですかね。これを中心に進めておられるということで、かなり数も前年度比で増えているというふうな数字がありました。</p> <p>この辺につきましてはどうでしょうか。</p>		<p>有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。</p>
	<p>有害鳥獣対策ですが、前回の審議会でもお話しさせていただいたんですが、年々、鳥獣の被害が増えてまして、最近では、昼間でも、美杉の奥へ行くと、道路から見えるところにおるんです。夜はもう、危なくて車で道路を走れない状態です。</p> <p>鹿との交通事故が何件あったかはちょっと分かりませんが、私の近くでも、5人や6人は交通事故をやっておるんです。</p> <p>また、鹿というのは骨が割と堅いらしくて、車とぶつかると車が損壊するんです。</p> <p>そういう被害が出てまして、もうほんとに夜は危なくて、40キロ以上のスピードでは危なくて走れない状態になってますんで、今、北村委員さんがおっしゃられたとおり、捕るばかりが対策じゃないというのもあるんですが、なかなかそうも言っていられない状態となっております。</p> <p>鹿というのは、10頭の母親が1頭ずつ、10頭の子どもを産むとすると、10頭のうち7頭までが雌なんです。子ども7頭が雌ということになりますと、翌年は17頭が1匹ずつ子どもを産むということになります。そういう状態で、ねずみ算式にどんどんどんどん増えていくらしいんです。</p> <p>そういう状態で、今は、家の軒まで来るような状態になっています。私の家も、玄関前に鹿がしょっちゅう来ているんです。毎晩くらい。</p> <p>もうそんな状態ですから、とにかく頭数を何とか減らしていただかないと。</p> <p>美杉に入ってもらえとよく分かるんですが、鹿と猿の柵の中でお百姓さんが野菜作りをしているというような状態です。</p> <p>今、頭数調整として捕っているのも、昨年、津市全体で約1,600頭と実績が書いてもらってありますが、その半分は美杉で捕っていると思うんです。</p> <p>その捕った800頭位を、適正に処理されている部分もあるとは思いますが、ちょっとどのくらいの数か分かりませんが、不適正な処理をされて、そのまま山に捨てられているものもあります。</p> <p>ですから、何とか、今の対策以外に、そういう適切な処理のできる方法を、施策を、というのを、何とか考えていただきたいと思います。</p> <p>死骸の焼き場を作っていただくとか、食肉として利用できることを考えていただくということができないでしょうか。</p> <p>今、美杉地区では、地域の活性化協議会というのを立ち上げまして、いろいろな活動を始めた協議会も出てきていますので、その辺の支援も市にお願いしたいなと思ってますので、よろしくお願ひします。</p>	<p>特に美杉地域では有害鳥獣による被害は深刻であり、頭数調整をしないとどうしようもない。</p> <p>なお、捕殺した後の対応も必要。</p>	<p>有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。</p>
	<p>それでは、そういった、いわゆる間引きという処理を講じつつ、他県で先進的に食肉加工する例も多々あると思いますので、そういったような情報を、しっかりと発信していただきながら、しかも可能な限りにおいて、企業との協働というか、よく分かりませんが、何か特産品になれば一番いいんですけども、そういったことにも取り組んでいくということを要望するという形で、後押しですか、そういう要望をつけさせていただくということによろしいでしょうか。</p> <p>それから、子どもたちが、実際に被害がある危険な場所を通ったりするというので、これについては、何か教育委員会等で特に推進しているというような、さらに進めていける要素は、ございますでしょうか。</p>		<p>有害鳥獣の農作物への被害以外の、人間、特に子どもへの直接的な被害の防止について取組まれたい。</p>
	<p>そういう場所があることは間違いないと思いますので、引き続き、しっかりと取り組んでいただくという形でお願ひするということとなりますでしょうか。</p>		

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
<p>地産地消を踏まえた漁業振興の取組み</p>	<p>1-3の海に開くまちづくりプログラムでございますが、地産地消を踏まえた漁業振興の取組みをということでございます。その中では、道の駅における魚の販売等の取組みを進めてほしいというような内容でございましたが、これについて、何か。</p> <p>私も昨日聞いたばかりなんですけど、今度12月18日に、美杉の道の駅で、白塚の海産物の販売をやっていただきたいと思います。私も、どのような形になるか、聞いたばかりで分からないんですが、道の駅で大々的にやっていただくという話を聞いてますので、これからも取り組んでいただけるのではないかなと思います。</p> <p>リピーターが増える要素としては、いろんなものがよりどりみどり、海のものから山、里の物を一か所で購入できるというのは非常に魅力的なことですから、そういう取組みの中で、またいろんな人が訪れてくれるというようなことを期待できるというようなことでございました。</p> <p>先ほどおっしゃったように、河芸地域の審議会におきましても、今から3年のうちですか、道の駅ができるという前提で、委員さん、侃々諤々、何を売ったらいいのか、何が特産物としてアピールできるのか、たくさん御意見が出ておまして、まだ確たる方針は出ておりませんが、須田委員を中心に、今、一生懸命検討中でございます。是非、行政の方の御支援をお願いしたいという気持ちでございます。</p>	<p>美杉の道の駅で白塚の海産物の販売が行われるが、今後もこのような取組みを進めてほしい。</p> <p>河芸の道の駅について、地域審議会でも検討している。行政の支援をお願いしたい。</p>	<p>漁業振興の取組については、道の駅での海産物の販売等、地産地消を踏まえた取組をより一層推進されたい。</p>
<p>まちづくり（ハード整備）に歴史（伝説）、文化、伝承等を活かす</p>	<p>それでは、1の方の、歴史と文化の拠点形成プログラムでございますが、大きく分けて、まちづくりに歴史・文化・伝承を活かすということと、新都心軸の具体的なイメージというところがございまして。</p> <p>観光・文化・自然・スポーツといったものが盛りだくさんに入ってくる内容だと思っておりますが、何か、さらにこれを発展させていく上で、課題と思しき点、こう進めたらよいだろうというような御提言がございませぬでしょうか。</p> <p>今、予定と比べてどれくらい進んでいるというふうな当局の方では考えておられるのでしょうか。</p> <p>文化と歴史の拠点形成という意味において、観光ルート等の整理や、集客のための取組みという点で、どうでしょうか。</p> <p>歴史とか文化とかの史跡となりますと、保存ということも大切なこととなりますので、保存計画も策定して、なおかつ、保存のための取組みも進めているということでございますので、さらにこれを継続的に進めてほしいという形で、提案をさせていただきたいと思っております。</p>		<p>歴史文化資源について、保存に関する取組を今後も継続的に進めるとともに、それらを活用した誘客にも取り組まれたたい。</p>
<p>スポーツイベントの開催目的について、市民の健康増進というだけでなく、観光、地域振興の観点も重要ではないか</p> <p>総合的なスポーツ施設の整備</p>	<p>前に、シティマラソンの話を、濱野委員がおっしゃっておられたと思います。</p> <p>私たちの大学の中にも、実は非常にマラソン愛好家の方が大勢おられて、その中に、御存知の方もおられるかもしれませんが、先日、サッカーの世界カップが開催されましたが、その日本代表についていった高地トレーニングの専門家の方がいらっしゃいます。元々は、マラソンの高地トレーニングの専門家であられるのですが、そういった人がいるにも関わらず、そういう人的資源をあまり利用ができてないと思っております。</p> <p>その先生と、先日の審議会でのマラソンのお話をしましたところ、元々、名松線沿いの駅伝があったとお聞きいたしました。</p> <p>その先生によると、あれは非常によかったのに、何でやめちゃったんだろうということでした。</p> <p>多分、諸事情がいろいろおありになったんだろうと思うんですが、周りを見てみると、マラソンばかりでなく、例えば、ウォーキングをしている人もすごく増えています。</p> <p>だけど、津シティマラソンじゃ全然だめだからって言って、菰野町のかもしかマラソンに行く人もいます。あのような高低差が激しいところではなく、もうちょっと平地で走れるところで、うまくできるんじゃないかかと思っております。</p> <p>他にも、志摩マラソンもありますよね。志摩マラソンもすごく人が集まるし、伊勢マラソンなんて、野口みずきちゃんがいるもんだからすごくたくさん人が来ています。</p> <p>津市でも、フルマラソンをやろうと思えばやれるのにお話だったんですが、それをするためにはすごくたくさんハードルがあるのは十分承知しております。</p> <p>しかし、先ほど、メッセのところ大きな体育館を作る、体育館を作るということは、世界大会も開催できる施設を目指すというふうにお聞きしております。</p> <p>津市にとっては非常に大きな、ある程度お金も使ってやることなのだろうと思っておりますが、施設を作っても、それなりのイベントがないとそれを作る価値が半減するように思います。</p> <p>私は、東京マラソンや、いろんなフルマラソンにも出ておまして、マラソン大会というものが、非常に多くのお金が動く大きなイベントの一つだと認識しております。</p> <p>そういったことから、スポーツ施設を作るとおっしゃるのであれば、そういったイベント等も含めた上で、利用計画みたいなのがないと、それはいいよって言って終わってしまうようなイメージがあります。</p> <p>具体的に大きな体育館を作るという話があるのであれば、それに向けて、いろんなスポーツが盛り上がるきっかけを作っていただければ、市民の方も、がんばってやっていこうかなという人がたくさん出てくると思います。</p> <p>10キロマラソン、ハーフマラソン、フルマラソンというのは、走っている人はたくさんおられると思います。</p> <p>今、すごいブームですから、例えば、美杉までの街道に行くっていうのは全然問題ないことで、三重県とともにやることも可能ではないかと思っております。</p> <p>いろんなイベントとの協働じゃないんですが、もし、津市として、そういったスポーツイベントも考えていただくといいと思います。</p> <p>津市と三重大学は、吉田先生ではないですけど、救急医療に関する連携もしておりますので、そういう意味でも、その他のいろんな面で協働していくことができますし、大学の中を見てみても、何人かの医学部の先生が、私はすごい好きなので是非やりたいと、おっしゃっておりますので、いろんなところで協働していくことは可能だろうと思っております。</p> <p>歩くこと、そして少しジョギングすること、そして走ることは、実は繋がった営みでして、その営みによって健康になるということも、もう実証されてますので、糖尿病を予防するとかいうことも全部含めて、取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>もし津市がスポーツを中心に活性化を図るとおっしゃるのであれば、そういった人的資源等を是非活用していただきたいし、きちんと年次計画みたいなのを立てていただいて、それを公開していただきたいと思います。</p> <p>式年遷宮に向けてというのは、時間的に無理かもしれませんが、市民としては嬉しいなと思っております。</p> <p>先般も、ハーフマラソンの実施についてお話しさせていただきました。</p> <p>来年1月30日に津シティマラソンを、安濃を中心に開催いたします。このシティマラソンですが、スタッフは、ハーフマラソンをやりたいんですよ。</p> <p>今、どういうスタッフで運営しているかを申し上げますと、体育協会、各競技団体から何人かが出ております。さらに、体育振興会も何人かが出ています。このように、ほとんど体育協会の競技団体から出て運営しておるわけなんです。</p> <p>市からもいろいろ御協力いただくわけですけども、はっきり言って、全部ボランティアでやっておるわけなんです。</p> <p>当日の弁当も出ません。安濃まで行く交通費も、みんな自前で。</p> <p>そんな中で、シティマラソンを運営しているわけですから、ハーフマラソンを実施するとすれば、これはもう一つ、違う組織を作るなりして対応していかないと、とうていできません。</p> <p>シティマラソンの運営というのは、参加者にただ走ってもらえればそれだけでいいというものではないです。</p> <p>運営に当たっては、やはり、地域と警察・交通関係との調整を始め、様々なことを全部しなければならぬ。</p>	<p>津シティマラソンをはじめとする市のスポーツ関連事業において、市内の人的資源を有効に活用すべき。</p> <p>スポーツ施設の建設に合わせ、スポーツ振興施策も実施すべき。</p> <p>津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけでなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。</p>	<p>スポーツ施設の整備と合わせ、健康増進等をテーマとしたスポーツ振興施策を実施されたい。また、スポーツを軸とした観光や地域振興についても検討されたい。</p> <p>津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけでなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。</p>

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>そういうことも考えると、どういった組織であればこれを受けて、シティマラソンを実施できるのかなと思います。おそらく、運営団体側に何かメリットがないと、これはできない。こないだも、体育協会の役員と話をしていたときに、こういう話がありました。我々としても、みんなハーフマラソンをやりたいんです。そうだけれども、他の人たちがどれだけ応援してくれるのか。体育協会だけで、これができるわけがない。実際に、津シティマラソンに何人みえると思います。2,300人くらいです。この参加者を、ジョギングから2キロ、5キロ、10キロというふうに区別をする、それだけでも大変なものなんです。私も、陸上競技をかじった一人ですけれども、はっきり言って、2キロ、5キロ、10キロより、ハーフマラソンの方が華やかでいいですよ。しかし参加者が何人に増えるのか、応援態勢をどうするのか、これは、前に濱野さんにもお答えしたんですけれども、今は、そんな状況です。それから、屋内スポーツ施設のことについて、今、お話しされましたけれども、実は、昨日、「動く市長室」で、体育協会と市長との懇談を行いました。我々、長年の夢を、今度実現しようというふうになっているわけです。屋内スポーツ施設について、我々が一番要望したのは、高速に近い、駅に近い、飛行機に近い、市外から来た場合に、非常に交通の便がよいところがいいなということです。具体的な場所を挙げて、どこどこにしてほしいというような希望はしたことはありません。たまたま、メッセウイングを中心としたあの辺で、総合体育館を作ったという話になってきましたが、現時点では、市内の大きな体育館は、津体育館、久居体育館だけなんです。津球場は鳥が入ってくるし、暑いし、久居の体育館も、暑くてやってもらえない、そういうふうな施設なんです。実は、9月17日から9月21日まで、三重県で日本スポーツマスターズというのが開催されました。これは、はっきり言って、高齢者のオリンピックみたいな大会です。その参加者として、7,000人が三重県に来ていただきました。選手だけでですよ。ところが、競技のグラウンド、その他、競技する場所がないものですから、津には、県都でありながら、1,500人しか来ていただけませんでした。津市では、バレーボールと軟式野球が行われました。軟式野球はメインとなったのは津球場、安濃の球場で、その他に、ヤマギシのグラウンドとか、芸濃のグラウンドとかを借りて競技を行いました。それ、選手は満足出来ない状態でしたが、我々体育協会も一生懸命やった。安濃の体育館では、バレーボールだけをやったんですが、それでも、試合の半分以上は鈴鹿に持って行かれました。はっきり言って、選手は非常に困っておられたと思うんですが、それでも気分よくゲームをして、21日の終了式には帰ってもらいました。そんなふうに、津では、体育館すら、大きな県大会、国の大会とか、そういう大きな大会を全然行えないようなものしかありません。中学校の部活の大会すら同様です。中学校の陸上競技の大会はどこを使っているとしますか。津にはトラックがないんです。実は伊勢のグラウンドを使っています。それから、大安のグラウンド。公式グラウンドはそれぐらいしかないんです。大会そのものを、伊勢や大安の方に持って行って、競技をしているというわけです。津市は、三重県の県都ですから、そういう大会の出来る施設を作っていかねばいけません。こういうふうには思っております。これが、何十年に渡る、私たち関係者の夢です。昨日の「動く市長室」での市長さんとの話でも、そういう話になったんです。皆さんがおっしゃっていただいておりますように、是非、シティマラソンをやきましょうよ、みんなで。その代わり、皆さんの御協力をお願いいたします。これは、体育協会だけの力では、絶対に運営できません。だから、いろいろみなさんに御協力いただいて、行政も入ってもらって。実は、シティマラソンのために、私、寄付をもらいに企業を歩いて回っているんですよ。会長がわざわざ行って、寄付をもらわなければ、シティマラソンの運営ができないんです。是非、ハーフマラソンやる時には、皆さん、御協力をお願いします。</p>		
	<p>シティマラソンを、観光とか地域振興の観点から、少し見直す。それについては、体育協会のみでは、ハーフマラソンとかの実施は不可能だということで、市サイドの後押し、そういったところもしっかりと取り組んでいただきながらですね、そういう体育協会と一緒にやっていけるような体制がほしいということでございますね。</p>		
	<p>先ほど、体育協会の長谷川会長がおっしゃられましたように、体育協会にすべてをお任せするという形ですと、ハーフマラソンの実施というのはなかなか難しいと思います。けれども、前にも申し上げましたように、合併前に、長野県の小布施のセイラさんが白山町へおみえになりまして、楽しんでやりますとお話をいただきました。私も長野へ行って見たんですが、本当に、体育協会の方ももちろんみえますけれども、地域の方がみんなで協力してやりますね。本当に地元密着型の手作りの大会で、スタートの時に、セイラさんが乗っていた台といえば、工事現場の台みたいなものでしたし、スタートの演奏はというと地元の消防団の人の演奏で、ちょっと音も外れてるみたいですが、一生懸命演奏してくれますし、道沿いでは、地域の方がいっぱい応援してくれて、さすが長野ですから、リンゴやいっぱい食べさせてくれますし。津市もそういう大会でいいと思うんです。きちんとしたスポーツの大会としていくと、なかなか難しいかも分かりませんが、楽しめるイベントという形で、この津の名物になるようにしたいと思っています。小布施の大会で最後におもしろかったなと思ったのは、参加料が少し高いようだけれども、温泉の券をくれるんです。これは、津市でもそんなに難しくありません。津市でも、参加料をあと500円上げてもらって、前日でも、次の日でも、一週間の間でもいいですから、榊原の温泉にでも行ってもらうとか、何か観光とも結びつけていったら、いいような気がするものですから。もちろんスポーツの大会ではありますが、観光や、いろんなものを含めてほしいなと思います。また、交通規制の問題ですが、小布施では、メインの道はあんまり走らせてくなくて、脇道みたいなところを走るようになっていました。ですが、それがまたよかったです。メインの道だと、アスファルトの広い道路ですけれども、脇道ですから、いろんなところを、ぐるぐる回るみたいな形で楽しみながら走れました。コースの最後は道の駅になっていて、そこに帰ってくるものですから、みなさん、自然と買い物をして帰りますね。あれだけ商品が並んでいると。</p>	<p>津シティマラソンについて、楽しめるイベントという形でハーフマラソンを実施して、交流事業としても活用してほしい。</p>	

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>うまいこと組んである、さすが観光地だなと思いました。 ですから、私が言いますのは、せっかくシティマラソンに来てもらうんですから、それをうまく利用してほしいということです。 市の職員で走るのが好きな人は、来年にでも一度行って見て欲しいと思います。 私が行って見てきましたら、そう思いましたものですから。</p> <p>今、基本計画を策定するとのお話をいただきましたので、どういうふうに入るのか分かりませんが、先ほど商工観光部次長さんから、もてなしという言葉もございましたように、人を集めて喜んでもらうという観点でそういうことをやれば、リピーターも増えるということだろうと思います。 それから、フルマラソンであろうと、ジョギングであろうと、ある程度健脚の方でないといけないですけども、レクリエーションと言いますか、高齢者の方々が、元気にスポーツを通じて健康・体力づくりをして、病院にかからないようにというような観点で、いろいろな取組みがなされてきております。 そういったところに関しては、何か御提案とかございますでしょうか。 ここでは示されておられませんけれども、いろんなパターゴルフだとか、なんとかゴルフだとかがあるように思います。</p> <p>高齢者のスポーツということでは、アクティブシニアということがあります。 定年になられた方々が組織を作って、いろいろなスポーツをやるというもので、市内でもあちこちで活動されてみえます。 例えば、津では津ソフトボールがございまして。 今まではゲートボールだけだったんですが、今は、テニス、それから、なんとかゴルフとか、ずいぶんたくさん出ています。 ああいうのを、これからもっともっと強化していかなければいけないと思います。 これは教育委員会だけでなく、福祉施策でもありますね。 寝たきり老人を作らないために、高齢者の健康づくりというのが、今後、今まで以上に大事になってくると思います。 私どもが中心になって、いろんなことをやっておりますので、是非、そういうのを、もっともっと盛り立てていきたいと、寝たきり老人を作らない、という方向で行きたいなと思います。</p> <p>そういう指導員とか、そういう方々はふんだんにおられるということでよろしいでしょうか。</p> <p>津市にある資源を活かしてという観点では、津市内には相当多いゴルフ場を利用してはどうかと思うんですよ。 アジアンサーキットという、アジアをずっと回ってゴルフをするというのがあるんですけども、津市内は、ゴルフ場が全国的に見ても多いので、これを活かさない手はないと思います。 10日とか一月がかりで回って、優勝者には、どこかの、東海マスターズに出られるとかいう席さえ取れば、全国から来るのではないかなと思うんですが、難しいとは思いますが。</p> <p>大変貴重な提案でございますので、そういった方面での取組みも、ちょっと話をしてもらって、口火を切ってもらって、そういった取組みをしてもらってということで、お願いできればと思います。</p>	<p>スポーツ関連事業について、健康増進という福祉政策としての位置づけも重視し、取組みを進めるべき。</p> <p>市内に数多くあるゴルフ場を利用した施策の実施を。</p>	
<p>その他（施策の広がりや広報のあり方）</p>	<p>実は、私は、津市民ではありませんが、よそから入ってきた者なのでいつも思うんですけども、津市は、皆さんがおっしゃられたように、商業都市でもないし、産業都市でもないし、でも、県都であって、大学や県庁があるというまちだと思います。 また、特徴的なものもありますよね。例えば、市の名前もそうです。津市は、世界で一番短い名前なんですよ。 私も、英語で津市って書くときに、いつも苦勞するんですよ。 「Tsu-shi」って書くとなんか変な感じがするので、「Tsu-City」って書いたり、いろいろ苦勞しています。 特徴的なものもあって、だけど、住みやすいと皆さんおっしゃいましたよね。 津市は、三重県の中では、割と転入される方が多いと聞いています。 そうすると、転入してみえた人が、ああ、ここ、意外と歴史もあるし、自然も多いし、海も山もあって、いいところよねというふうにして、またどこかに転出した後も、津市の話をして宣伝してもらえたりする、もしくはいい印象を持っていただけたらいいなと、私いつも思うんですよ。 それなのに、私の印象なんですけれども、津市の広報の仕方にも問題があるように感じます。 津市の、市民に対するアプローチの仕方とか、例えば、新都心軸にしても、なぎさまちにしても、うまく伝わっていないように感じます。美杉はどちらかというと、どうも奈良とか大阪とかあっちの方向を向いているような気がして仕方がないので、あれなんですけれども。 津市って、他から入ってきた人がイメージ出来にくくなってすごく思っています。 もうちょっと、なんででしょうか、宣伝の仕方がどうか分かりませんが、例えば、津市の広報にしてもそうなんですけれども、印象が残らないんですよ。はっきり言ってインパクトがないんです。こういったことを、もうちょっとうまく、あんまりたくさん出し過ぎずにしたらいいなと思います。 この審議会に出てきたときに、総合計画が総花的になりすぎていてダメだっておっしゃった委員がいて、私も、それがすごく納得できて。 重点プログラムも項目が多すぎると感じるような気がしてしょうがないので、メインのものをぐっと押し出して、これを広報して。 評価についてもそうです。この見直しの結果も出しますよね。そのときの出し方を、是非ちょっと考えていただきたいと思います。 津市民が、津市はこうなっていくんだ、こうなったらあと5年たてばこうなって、楽しみだなんて思えるような、目標と進捗状況の出し方をしているだけでいいなら、きっと市民の方ももっと関心を持って下さるかなって思うんです。 そうでないと、こういった施策が実施されていて、その評価や見直しを私たちがやって、こういう事業がこんなふうに進んでるんだよって言葉で言っても、うまく伝わりません。 先ほど長谷川委員がおっしゃったような、市民の方にも、もっと協力してもらいたいというのは、総合計画の中でも、市民との協働という形で書いてあったと思うんですよ。 もともとこの中には、協力・共生というのは主要な柱だったはずなので、もうちょっと、津市民の関心を寄せてもらえるような出し方を、是非是非していただきたいです。 それも、特にメインになることを中心に、インパクトのある報告書づくりをしていただきたいし、プレスリリースの仕方でも少し考えていただけたらいいのではないかと思います。</p>	<p>ポイントを押さえインパクトのある広報を行ってほしい。</p>	<p>ポイントを押さえたインパクトのある広報を。 総合計画におけるそれぞれの施策の成果を結びつけて、全体的に大きな成果としていくべき。 それらをいかにうまく広報するかが重要であり、しっかり取り組まれない。</p>
	<p>津のPRになるかどうかは分かりませんが、半泥子が大きなポイントとなるような気がします。 陶器もブームとなっていますから半泥子に関連する施策のところですが、出来たら、体験出来る形がいいと思います。 東の魯山人、西の半泥子というくらい存在ですから、やはり、その、西の半泥子が体験できる場所というのは、意外と全国にPRになると思います。 それから、市内にウォーキングが出来るコースがいっぱいありますから、せっかくならPR出来るウォーキングとしてほしいと思います。 こないだ少し書いたんですけども、津市にかこつけて津（2）デイウォーク、高虎とお江の歴史を歩いてみませんかとか、ウォーキング大会を開催するのでも、広報、新聞社なんかがついてくるようなPRをしたらどうかなあとあります。</p>	<p>津市の特徴として川喜田半泥子を活用すべき。 イベントとの名称に「津」という名前を活用してPRしてはどうか。</p>	<p>千歳山については、北大路魯山人と並び称される川喜田半泥子に関連する施設として、全国にPRできる資源であることから、歴史と文化に接する場としての活用を検討されたい。</p>

まちづくり戦略プログラム分科会発言整理一覧

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>津のウォークはいいのがありますが、県外まで広報することを考えた場合には、そういう形でしていくのも、一つの方法のような気がします。</p> <p>また、マラソンの話も出ましたけど、マラソンは今ブームですから、全国でも、京都や名古屋や大阪が開催するということですけども、奈良が、今年の遷都 1,300 年ということで、大阪や京都に先駆けてフルマラソンをするんです。</p> <p>参加者の枠は 5,000 人くらいだったそうなんですけど、5 日で埋まったって聞きました。それも、PR をうまくしたからだと思います。</p> <p>PR のことを考えずに、ただ、奈良でマラソン大会を開催しますということだったら、ここまで集まるかどうか。</p> <p>津は、せっかく津という、特徴のない名前があるので、名前を含めた PR を、小さいことからしていったらどうかかなあとと思いますね。</p> <p>前期基本計画の 2 年間の成果で、まだ、点とも呼べないものもあるかもしれませんが、確実に一步一步前進して、核になるコンテンツが出来て、そのコンテンツと結びついて線になって、線と線が結びついて面になって、全体的に総合計画が具現化されるというところだと思います。</p> <p>広報については、出来るところからしっかりと取り組むをやるということで、いろんな取り組みのところで提案をさせていただく、その一方で、評価というのは、実績があつて評価されるべきものなので、私も大学の方で文科省相手に、よい評価をされるためにうまく書くようにしていますが、やっぱり実績をしっかりと上げて評価されるという方が、すてきじゃないのかなと私は思いますけれど。</p> <p>そうであっても、いかにうまく広報するかということもやっぱり大事なことで、しっかりと取り組んでいただくという形にさせていただきたいというふうに思います。</p>		
<p>その他（津城跡）</p>	<p>津城跡とその周辺の整備・活用について、まだ一言もどなたからも出ていなかったの、言わせていただかなければならないかなと思うんですけど。</p> <p>この事業は、言っただけで出来るような活動ではないと思いますので、早いうちからもっと市民に対して、意識づけのつもりで PR をしていただいて、関心を持っていただくという運動を起こしていったらどうかかなと思うんです。</p> <p>おそらく、5 年、10 年では出来上がらないような大きな事業だと思います。</p> <p>しかし、この新都心軸の形成には、やっぱり、お城を外すことは難しいですし、藤堂高虎公とお城は、やっぱり活かしていかなければならないところだと思います。</p> <p>私はこの津城跡の整備・活用を考える会にも入れてもらってるんですけども、一般の方は、お城に関する取り組みのことを、何もご存じない。</p> <p>この前、白山町からバス 1 台 40 名で、この城跡を見に来たことがあるんです。</p> <p>以前よりはちょっと整備されておりますけれども、ひどい状態です。</p> <p>城垣の方は、多分、もう調査が入って、どこをどう修理した方がいいと検討されていると思うんですけど、熊本城の本丸御殿が整備されたというので見に来ましたら、やっぱり基礎づくりからでも 10 年かかったということなんです。</p> <p>費用が 54 億かかったそうで、その 54 億のうち、40 億は公費で、あとの 14 億は、一般市民の寄付とか、そういう浄財であったということなんです。</p> <p>もちろん規模が違いますから桁も違うと思いますが、そういうお金を一般から関心を持って寄付をいただくとするのなら、運動だけは早い目に起こした方がいいんじゃないかというふうに思います。</p> <p>これから、いろんなテレビでも取り上げていって、そういう中で、きちっとそれに載るような形で行くということで、よろしいですね。</p> <p>では、そういうことについても盛り込ませていただきます。</p>	<p>津城跡及び周辺地区の整備について、事業規模が大きいことから、市民の関心を集めるために早めに PR 活動を開始すべき。</p>	<p>津城跡及び周辺地区の整備については、事業規模が大きくなるのが予想され、全市的な取組としての機運を高めるための PR 活動等により、市民のアイデアを活かした市民参加型の事業として推進を図られたい。</p>
<p>その他（子育て）</p>	<p>今日のお話の中で、子どもたちのことを考えていただいている御意見を、本当にたくさんいただいて、嬉しく思っておりました。</p> <p>実際に外で遊んでいる子どもたちを見かけなくなった等々の話を聞きますが、我々が小学校のときには、入学と同時に子ども会に入るのが当たり前でした。</p> <p>PTA は、今でもまだ加入率が 100% 近いんですけども、子ども会の場合、旧津市ですと、びつくりするくらいの加入率になると聞いています。</p> <p>半分くらい切ったのかなと思っていたのですが、もっと低い、約 35% だという話を聞きました。</p> <p>その子ども会も、年に 1 回くらい、津球場を使わせていただいて、球技大会を開催しています。我々の小さいときからありましたので、かなりの歴史があると思うんですけども。</p> <p>そういうのに参加したくても、会員じゃないと入れない等々の問題があります。</p> <p>子ども会への加入は強制は出来ないことだと思うんですけど、そういうところに関わらせていただいている我々が、あそこに行きたいからうちも子ども会に入ろうというのを親子で話し合っていけるような行事をたくさん作ることによって、口コミで魅力が伝わるような会にして、加入者を増やしていくしかないと思っております。</p> <p>しかし、行政の方からも、学校の方を通じて、こういう行事、こういう会、こういう絵本の読み聞かせ、こういう森林・海・山の行事があるという PR をしていただきたいと思います。</p> <p>そういう行事をやっていることも知らないということがあつたら、本当に寂しいと思いますので、ちょっとずつ、第一歩を踏み入れていただくとありがたいと思います。</p> <p>保護者にとっても、あんなの今まではやりたくなかったけど、1 回行ってみたらすごくおもしろかったというようなことがあれば、それがきっかけになって、ずっと、そういう活動にも興味を持ってくれることになりまして、そうすると、高齢の方から若い方までのつながりが出来て、もっともっと住みやすい、もっとみんなが安心して、子どもが外でも遊ぶ姿をいつでも見かけられるような、そんな元気なまちになるんじゃないのかなと思いますので、その辺の協力も出来たらお願いいたします。</p> <p>子どもというと、まちづくりでもあるし、元気づくりでもあるし、どちらとも分けが出来ない話で、行政的なバックアップと、個々のそういう子ども会の取組み、それぞれが、一つ一つの問題になって来るだろうと思います。</p> <p>そういう面で、どういう形になるか、今、御意見いただいたことも受け止めさせていただいて、提案の中に盛り込ませていただければと思います。</p>	<p>現在、子ども会の加入率が低くなっている。</p> <p>行政からも、学校を通じて子ども会活動の PR をしていただきたい。</p>	<p>子育ては、まちづくりでもあり、元気づくりでもあるとともに、行政や子ども会等、様々な主体が様々な取組みをしている。</p> <p>一つ一つ取組み、それらを連携して、大きなものにされたい。</p>